Ⅰ　普及活動成果

1　労働力軽減・確保による魅力ある薩摩川内市農業の振興

【成果の要約】

- 「薩摩川内市農作業サポート人材バンク」が，令和2年4月1日稼働することとなった。
- らっきょう切り子確保対策では，調整作業を3工程に細分化することで，「機械＋農福連携」が可能になった。
- 畜産農家では，分娩監視カメラや牛温恵などICT機器の導入が進んでおり，今後も継続活用の意向が強いことがわかった。
- ぶどう農家では，無核化処理の回数を半減することで，省力化につながった。
- 水稲農家では，品種の組み合わせによる作期分散の導入が進んだ。

1　対象

らっきょう研究会８人，ごぼう部会25人
GFTグループ９人，ぶどう研究会７人，
生産牛研究会13人，稲作研究会14人，
薩摩川内市茶業振興会28人

2　課題を取り上げた背景・ねらい

管内の農業者数は，平成22年3,487人から平成27年2,783人と約20％減少しており農業就業人口の73％が65才以上と高齢化が進んでいる。

各品目の産地維持のため，ＩＣＴを活用した省力化技術や水稲作型体系を検討し，さらに労働力調整システムを試行する。これらの取り組みにより，地域内の多様な担い手が確保され，各振興品目や現在の栽培品目の栽培面積の維持が図られ，農家の所得向上を目指す。

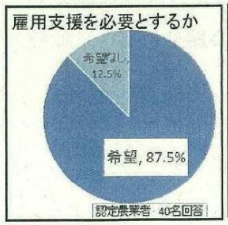
3　活動の内容及び成果

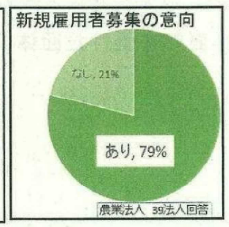
（2）労働力調整システムの構築

ア　労働力調整システム（案）検討

（ア）意向把握

薩摩川内市における労働力確保に向け農家の意向を把握した結果，約９割の農家が雇用を希望していることがわかった。





（イ）先進事例調査

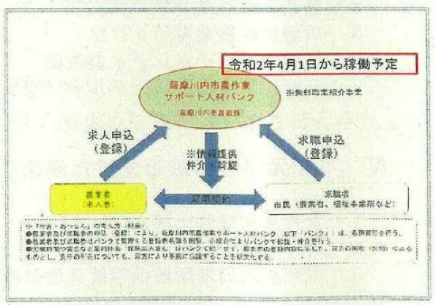
５月29日～30日に，市・農協・農政普及課の5名が参加し，大分県佐伯市農作業サポート人材バンクの取組及びＪＡ全農おおいたにおける人材派遣派遣会社を介した取組を調査した。

平成28年の職業安定法の改正により，市町村での無料職業紹介事業が取り組みやすくなったことがわかった。

大分県佐伯市にて研修

（ウ）労働力調整システム（案）検討

薩摩川内市では佐伯市の「農作業サポート人材バンク」の取組を参考に，市農政課内に，「農作業サポート人材バンク」を設置することとし，労働局への届け出を済ませ受理された。



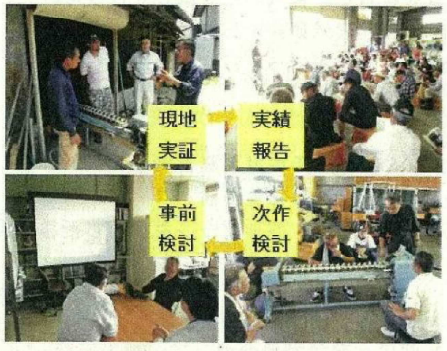
（エ）専門家を活用した情報収集

鹿児島労働局，川内労働基準監督署，特定社会保険労務士等の専門家から無料職業紹介事業や雇用するにあたっての留意事項について情報収集した。

北薩

イ　らっきょうの収穫調製労働力確保体系（「農機＋農福連携」）の検討

県農業開発総合センターが開発した試作機と障がい者等による作業を組み合せた調整方法について検討した。切り子作業を３工程に細分化したことで「農業機械と農福連携」の処理量が，「切り子のみ」を上回った。



切り子確保対策の検討では受託組織の支援を行い，５地区コミセンへ募集を行った。その結果８名の雇用者を確保できた。

（2）労働力軽減に向けた省力化技術確立

ア　ＩＣＴ等を活用した省力化技術検討

【畜産】

労力軽減に向けＩＣＴ機器の導入状況把握やアンケート調査を行うほか，集合研修等で紹介した。

首に装着された機器
（ファームノート）

【水稲】

畦畔管理の省力化に実証を行い，結果を水稲農家研修会で，紹介したところカバープランツより，抑草シートへの関心が高かった。

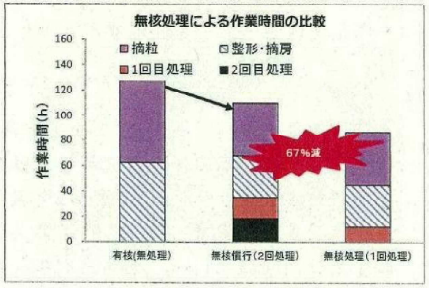
カバープランツ　被覆状況

抑草シート　被覆状況

【ぶどう】

有核巨峰に比べて，無核（種なし）栽培では，薬剤を用いた無核化作業が必要となるが，花穂整形や無核果を取り除く摘粒作業が少なくなり，年間作業時間は20％近く短縮される。

そこで，無核化栽培の導入を進めるとともに，さらなる省力化を目標に薬剤処理の回数を減らす取組を行った。



イ　水稲の作型検討

水稲の営農シミュレーションの提案では，なつほのか＋ひのひかりなどの組合せによる作期分散体系を紹介した。実践農家から「労働が分散できた」「収量が安定してきた」と，報告がなされた。

稲作研究会にて

4　残された課題

（１）労働力調整システム（案）の試行・検討
（２）らっきょうの収穫労働確保体系の確立
（３）省力化技術検討・構築
　（畜産・果樹・水稲）
（４）作型検討（水稲）

5　取り組んだ普及指導員

川畑，篠原，田中，上村，前田，
◎上福元